令　和　３　年　度　自　己　評　価　表

愛媛県立宇和高等学校（38）

教育方針	・質実・剛健で責任感が強く、独立精神と実践力を持つ人材を育成する。 ・敬愛の心豊かな、清純・明朗で優しさのある人材を育成する。 ・学友仲良く、師弟の絆を強め、隣人愛を持つ人材を育成する。	重点目標	自己肯定感を高め、「生きる力」を育成する教育の推進 ～知を磨き、心を耕し、体を鍛える～

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
１学校経営	特色ある学校づくり	○教職員の相互の連携を深め生徒の主体性と個々の自己肯定感を高める教育活動を行う。 ○小規模校（三瓶分校、市内県立学校）との連携を深める。 ○地域や行政と協働した教育活動を行い、地域に開かれた学校づくりに努める。	B	○教育活動全般において、担当課・各学年団が連携し、特にホームルーム活動、総合的な探究の時間部活動等を通じて、少しずつ生徒の主体性や自己肯定感が育っている。 ○遠隔授業や学校間バスの活用で各校との交流が深まった。 ○西予市や地域と協働した諸活動が行われ、特に、特別活動や総合的な探究の時間、農業科の各事業に成果がみられた。	○依然、生徒の主体性や個々の自己肯定感に差が見られるため、教育活動全般において家庭と連携しながら学校側の創意工夫と研修を重ね生徒の人間的成長を支援したい。 ○ＩＣＴ活用研究により諸活動での連携・協働を深めたい。 ○地域に愛され、地域とともに歩む学校として、地域や行政と協働した取り組みをさらに推進したい
	安全・安心な学校づくり	○生徒や保護者が安心できる安全な学校環境・施設設備の整備を図り、安全管理を徹底する。 ○健康管理、危機管理の徹底を通して、安全・安心な生徒の学びを確保する。 ○「危機管理マニアル」を改善し非常時に対処する。	B	○コロナ禍の中適宜教職員の情報共有を図り関係機関との連携により感染対策を講じ、学校環境・施設の整備を行った。 ○生徒の健康管理意識を向上させるための方法を研究し、家庭との連絡方法等についても改善を行った。 ○様々な災害の場面を想定し、緊急事態への実効力のある「危機管理マニアル」の改善の見直しが課題に残った。	○コロナ禍とともにコロナ後を見据えた安全管理を進め、さらに安全・安心な学校づくりに向けて対策を講じたい。 ○食育の充実や生徒の自己健康管理の意識の向上や管理職・教職員の危機管理力について向上を図りたい。 ○緊急時において、実効性の高い具体的な行動が可能な「危機管理マニアル」に改善していきたい。
	学校教育活動の公開と情報発信	○教育活動を公開する機会を増やし、保護者や中学校、地域住民等との交流を深める。 ○ホームページやＳＮＳ等の情報発信を充実させ、生徒・保護者・地域の理解を深める。 ○報道機関への情報提供を充実させる。	B	○校外的にはコロナ禍等で様々な教育活動の公開機会が減少し、中学生体験入学も昨年に続きＷＥＢで実施された。 ○ホームページの更新と内容を充実させるとともに、マチコミメールやTeamsを活用して保護者との連絡を密にした。 ○教育活動の様子について、ローカル局や地元ＣＡＴＶや新聞、広報誌を通じて地域への発信が行えた。	○コロナ禍でも教育活動を公開できる方策を研究し、特別活動やボランティア活動を通じて地域との連携を深めたい。 ○ホームページをさらに充実させるとともに、各種ＳＮＳを有効利用した情報提供ができるよう研究を進めたい。 ○マスメディアと連携して、本校の魅力を外部に積極的に発信していきたい。
２学習指導	家庭学習の充実	○生徒の進路意識を向上させ目標達成のために、各自の学習ＰＤＣＡサイクルを確立させる。 ○ＩＣＴ活用等を含めた課題の出し方(質や量、教科間のバランス)等を各教科で研究する。 ○家庭と連携し適切な課題の設定により１日の家庭学習時間２時間以上を確保させ学習習慣の定着を図る。 （A:２時間以上 B:119～90分 C:89～60分 D:59分～30分 E:30分未満）	C	○普段の家庭学習においても、臨時休業を見据え、ＩＣＴを活用した課題の出題や提出等を実施している。 ○10月に実施した「生徒による授業評価」の中の「予習復習をしている」という項目において、21.1%の生徒が低い自己評価をしている(R2:14.7%)。 ○家庭学習時間の確保に努めたが、クラスによっては、学習時間が少なく、課題の設定を再考する必要がある。	○継続してＩＣＴの活用等を含めた課題の工夫を各教科で研究し各教職員のＩＣＴ活用能力も向上させる。 ○授業評価の結果について再検討するとともに　家庭学習時間の確保のため、各教科における課題内容を改善する。 ○生徒の進路希望を把握し、適切な質と量の課題を課して進路実現へつなげたい。
	教科指導の充実	○主体的・対話的で深い学びを目指し、効果的な評価法の導入による学習指導を行い、学習内容を定着させる。 ○ＩＣＴの活用等の指導法や教材研究を行い、生徒の学習意欲を向上させ、主体的に学ぶ態度を育成する。	B	○昨年度に続き、コロナ禍によって、対話やグループ学習に制約があった時期もあったが、Wi-Fi環境も整い、一人１台端末等を活用し、生徒の学習意欲の向上につながった。 ○教職員のＩＣＴ活用の研修を実施し、身近なものとなるよう鋭意努力している。	○引き続き、主体的・対話的で深い学びを目指し、評価法も含め授業方法を研究する。 ○生徒が積極的に一人１台端末を活用する仕組を研究する。 ○教職員全員で　ＩＣＴ機器の活用に取り組み、技術の修得に努める。
		○選択科目設定や放課後補習、土曜学習支援、習熟度別学習等を通して、個の能力やニーズに応じた指導を行う。 ○生徒各自の健康管理を促し、皆勤率を向上させる。	B	○選択科目を充実させるとともに英語と数学で毎週１時間ずつ補習を実施している。 ○３年生は金曜も実施しており土曜学習支援は部活動の公式戦や行事等を考慮して精選しより効果的なものとしている。 ○コロナ禍により、発熱等があれば出席停止としているが、平年並みの皆勤率となっている。（２学期末64.1%）	○選択科目を多く設けて生徒のニーズに対応するとともに、個別指導の充実を図っていく。 ○コロナ禍による学校行事等の縮小や延期、中止等により、あたりまえの学校生活の良さを改めて感じている生徒が多くいた。引き続き、生徒に健康管理を促し、皆勤率を向上させたい。
	読書指導の充実	○生徒の興味・関心を尊重して読書意欲の向上を図り、生徒の言語活動を充実させる。 ○朝読書を推進し、図書貸出冊数年間１人10冊以上を目指す （A:10冊以上 B:9～7冊C:6～4冊 D:3～1冊 E:0冊） ○多読賞（年間30冊以上貸出）受賞者数が全校生徒の10%以上になることを目指す。 （A:10%以上 B:9～7% C:6～4% D:3～1% E:1%未満）	B	○予算が削減されたが生徒の意見による本の購入を行った。 ○学校評価アンケートの朝読書に関する項目でも教員生徒ともに評価のポイントが上昇した。 ○教員を対象に朝読書に関するアンケートを行い、図書委員が朝読書週間を知らせる掲示をするなどの工夫をした。 ○図書貸出冊数年間は昨年度より下がったが、３年生の読書量は多く、積極的に読書をしていた。 ○多読賞（年間30冊以上貸出）受賞者数は、2月4日時点でＢ評価である。	○次年度も、今年度同様生徒の意見を取り入れつつ新しい本の購入を行っていきたい。 ○特に３年生にとっては、推薦入試などで知識を深め、職業や学部についての情報を取り入れることが重要である。今年度も入試前の３年生の利用が多くなっため、生徒への早めの声掛けも行っていきたい。 ○１、２年生についても図書委員を通じて魅力的な本を紹介し、読書習慣を身に付けられるようにしていきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
３ 生徒指導	高校生らしい態度の育成	○身だしなみを整える社会的意味を理解させ、生徒の自発的なルール遵守の意識を育てる。 ○身だしなみ指導の合格者を100％にする。 （A:100% B:99～80% C:79～60% D:59～40% E:40%未満 ）	B	○身だしなみ指導の合格率100％は達成できていないが、日頃より特に服装の乱れもなく学校生活を送ってれている。 ○再指導の生徒も少なくなり、違反も軽度で再指導により改善されている。	○身だしなみについては、普段の生活から意識して取り組んでいくように教員側で呼びかけをしていく。 ○風紀委員が中心となってクラスでみんなに呼びかけをするなど、生徒自身の意識づけを進めていきたい。
		○「三つのする（挨拶・返事・後始末）」を徹底し、生徒の自発的なきまりへの遵守意識を高める。	A	○「三つのする」は生徒に意識され、生徒の自発的な規範意識も向上している。	○生徒自身が「あいさつの意味」を理解し、コミュニケーションを取る第１歩であるという自覚が持てるために、気持ちの良いあいさつが行内外でできるようサポートする。
	自分や他人を大切にする指導の充実	○全校一斉面談実施により生徒が教職員に相談し易い環境を作り教育相談活動を充実させる。 ○家庭と連携して問題を早期に発見できる体制づくりを進める。	B	○本年も全校一斉面談については全教員が行い、日ごろの生徒との面談等とともに、抱えた生徒の相談やその問題解決に向けて大切な機会となった。 ○丁寧な生徒指導や教職員の連携、早期の家庭連絡等により問題を抱える生徒に寄り添うサポート体制ができた。	○いじめ等の実態は見えにくくなって複雑化しており、教員が生徒の様子や状況等について日ごろから目を配り、情報共有を行いながら、いじめの未然防止につとめたい。 ○教員と保護者・生徒との信頼関係を高め、連絡を密にしながらさらに問題の早期発見に努めたい。
		○教職員が共通認識のもと連携した生徒指導体制をつくり、「いじめ問題」をなくす。 ○生徒相互の良好な仲間づくりに配慮した集団形成を目指す。	B	○本年度２件のいじめの問題を認知したが、生徒から早めに相談を受けることができ、対応がきちんとできている。 ○本校生徒は基本的に「優しく」「思いやり」のある生徒が多く、いろいろな活動でも互いに協力し合って取り組んでいる。	○ＳＮＳ上でのトラブルが多く、改めて「ＳＮＳ」の使い方や公共性を生徒に認識させる。 ○生徒相互間での良好な仲間づくりを積極的に支援し、互いを思いやる心を育成し、クラス全体で協力しながら問題解決につなげるような雰囲気づくりを支援していく。
４ 進路指導	進学、就職指導の充実	○進路希望達成に向けての意識の向上のために生徒の実態に即した説明会等を実施する。 ○進学及び就職希望者への小論文（作文）及び面接の個別指導を充実させ進学・就職率を100％にする。 （A:100% B:99～90% C:89～80% D:79～70% E:70%未満 ） ○国公立大学及び難関私立大学の合格者５人以上を目指す。（A:5人以上 B:4人 C:3人 D:2人 E:1人以下）	A	○進路オリエンテーションを３回、８月には三瓶分校及び野村高校と合同で夏季合同学習会（２日間）を実施した。 ○就職・進学希望者に対して、全教職員体制で生徒個々に応じた小論文（作文）及び面接指導を実施した。進学・就職内定率は、約100％となっている。 ○国公立大学合格者11名及び難関私立大学合格者１名となっている。	○生徒の実態に即した進路オリエンテーションを関係機関の協力を得ながら実施する。 ○就職及び進学希望者へ、全教職員体制での面接指導を更に充実させるべく計画的に、効率良く実施する。 ○今年度の３年生の取組を１・２年生に伝えることで、継続した本校の取組として定着させたい。
	進学指導の充実	○総合型選抜及び学校推薦型選抜の研究を行い、生徒個々の能力が十分発揮されるように、生徒一人一人に向き合った細やかで適切な指導を行う。 ○各種検定に対する受検意欲の喚起を行うとともに、補習等を充実させて、検定試験合格者延べ300人以上を目指す。 （A:300人以上 B:299～250人 C:244～200人 D:199～150人 ：150人未満）	B	○進学及び就職指導委員会をを計画通り実施した。 ○生徒の志望に応じた総合型選抜及び学校推薦型選抜の受験を例年以上に数多く提案できた。 ○ひとりの生徒について、複数の教員がチームを組んで進学の指導や教科指導にあたり、成果を残した。 ○商業関係の検定試験では236名、実用英語技能検定21名、日本漢字能力検定９名の合格者数（それぞれ延べ数、３月15日現在）となっている。	○早期からの進路選択に係る取組を生徒に促すと共に、ホームルーム担任との情報共有を一層強化していく。 ○資格取得への広報を継続し、検定合格への意欲を高め、各種資格検定の合格者数を向上させる。 ○一人一人の進路先や個性、能力に応じて体系化された丁寧な指導体制や方法についてさらに研究を進める。
	就職指導の充実	○就職準備に対する指導を徹底し応募前職場見学実施率を100％としミスマッチを防ぐ。 (A:100% B:99～80% C:79～60% D:59～40% E:40%未満) ○綿密な就職指導を行い、生徒一人に付き面接練習を10回以上行う。 （A:10回以上 B:9回 C:8回 D:7回 E:6回以下）	B	○就職準備に対する指導取組は例年通りで、応募前職場見学　についてはコロナ禍にも関わらず85.7%の生徒が参加して、職場の状況を知りミスマッチを防ぐための機会となった。 ○例年通り、関係教員はもとより、全教員が就職希望の３年生に対して、夏休み中、応募期間前や応募期間中に全員10回以上の面接指導を行った。	○就職準備に対する指導を来年度も徹底するとともに、応募前職場見学が100％となるよう努力したい。また、生徒一人に付き面接練習10回以上を目標に励んでいきたい。 ○教員の面接指導力がさらに向上するように、校内外の研修会等への参加や教員相互の情報交換を行っていく。
５ 特別活動	部活動･クラブ活動の充実	○各部が活動内容の工夫により魅力ある部活動を実施し部活動の加入率を90％以上を目指す。(A:90%以上 B:89～80% C;79～70% D:69～60% E:59～50%)	A	○部活動加入数は98.2%(R2年度は97.0%、R元年度は93.9%)と目標を大きく上回っている。各部の手厚い指導で一度入部した部員が引退までやり続けることができた。	○小規模校らしい生徒一人一人にあった丁寧な指導を心掛けて高い部活動加入率を維持していきたい。
		○日々の練習内容の充実により各部のレベルアップを図るとともに県大会以上大会出場者数90人以上を目指す。 (A:90人以上 B:89～60人C:59～40人 D:39～30人 E:30人未満)	B	○運動部において県総体に出場した選手は82名であった。新型コロナウィルスの影響により、練習不足は否めないが各部が工夫を凝らしてまずまずの成果が得られた。	○新型コロナウィルスの影響で十分な活動がおこなえていないが、選手が主体となって活動できるように運営し、県総体出場者数90名以上を目指す。
		○全国大会に出場する生徒を育成するため、技術・体力・メンタルのレベルアップを図る。 ○四国大会以上の出場者数10人以上を目指す。 （A:10人以上 B:9～7人 C:7～5人 D:4～2人 E:0人以下）	C	○第35回愛媛県高等学校総合文化祭（弁論部門）において優秀賞を受賞し、令和４年度全国高等学校総合文化祭弁論部門に出場する。 ○社会文化体育部（水泳）の生徒が、四国総体へ出場した。	○より高い目標を掲げることで充実した活動をおこない、他者との協働に喜びを感じられるような選手を育てる。 ○先輩生徒の取組や成果を後輩生徒が引き継いでいけるようにする。
	地域に貢献する活動の充実	○地域や行政、市内の県立学校や幼・小・中との連携を深め、ボランティア活動、地域イベント等に多くの生徒が参加する機会を作る。	A	○西予市議会との交流会や三瓶分校との連携事業など地域との結びつきが強くなった。 ○四国インターハイ推進委員会の活動を通して南予の高校との連携事業にも積極的に参加した。	○新型コロナウィルスの影響で活動に大きな制約はかかると予想されるが、その中でもできることを少しずつ増やしていきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
６ 業務改善	業務負担軽減のための改革	○校務支援システム等　ＩＣＴの活用により、業務の効率化や省力化を図る。 ○業務分担を見直すとともに、学校行事の精選や部活動の負担軽減等を図る。	C	○教職員の校務支援システムの活用は進んでいるが授業その他でのＩＣＴ活用への取り組みには個人間で差がみられる。 ○生徒数・教員数の減少に伴い、業務の負担は増大しており学校行事の精選も進まず逆に増えていく傾向がある。	○校務支援システムのICT利用頻度を高め校務のさらに効率化・省力化を進める。 ○学校行事の精選を進めるとともにＩＣＴ活用や新事業への取組について各課・各学年・各教科で連携して取り組む。
	勤務時間の適正化と職場の環境整備	○時間差通勤の導入や校務支援システムの活用により労働時間の短縮に取り組む。 ○ストレスチェックの活用や職場の環境整備により教職員のメンタルヘルスの維持を図る。	B	○時間差通勤や業務の振替時間の活用は増加し、テレワークの活用も少しずつみられはじめ、時間差の昼休みの取組もコロナ感染対策としても効果を上げている。 ○ストレスチェックの結果は、全般的には良好な結果が出ており、職場の環境整備も少しずつ進んでいる。	○校務の負担軽減と効率化のために、教職員全員の校務支援システムの有効活用と時間差通勤やテレワークを推進するなど柔軟な対応を行う。 ○全教職員にとって「やりがいのある安心な職場」となるよう職場環境の向上に努めたい。

※ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。